

地域の方への天文イベントを通して得たアンケートの分析

小牧 亮介、清水 大斗、野見山 航太、藤吉 莉央（高2）【横浜市立戸塚高等学校】

要旨

戸塚高校天文部では地域住民や保護者向けに毎年半年に一度「星空観察会」と呼ばれる交流会を行っている。星空観察会では、本校にある天文台や屋上で望遠鏡を使って天体観測を行ったり、星座や宇宙に関するプレゼンテーションを行い、地域の方々との交流を深めることを目的に開催している。アンケート結果により、地域住民の方々の満足度が平均的に高いことが分かった。

方法

星空観察会後に参加者からアンケートを取る。内容は年齢・来校経験・参加のきっかけ・屋上での観測、天文台にある口径35cmニュートン式反射望遠鏡での観測、プレゼンに対する5段階評価・また参加してみたいかの5項目である。今回は過去5回分のアンケート結果を分析した。なお、星空観察会の1回の定員は20~30名である。当日のタイムテーブルを図4に、様子を图5,6にそれぞれ示す。

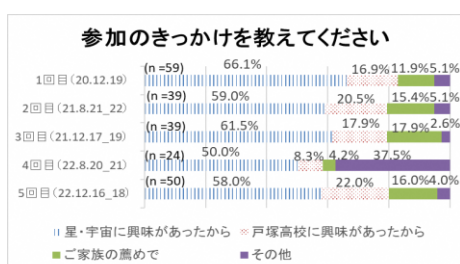


図1: 参加のきっかけ

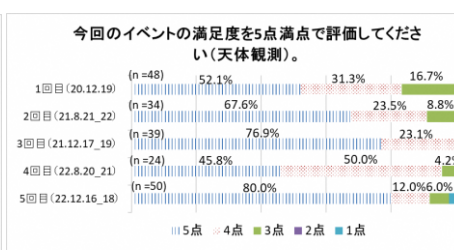


図5: 天体観測の様子

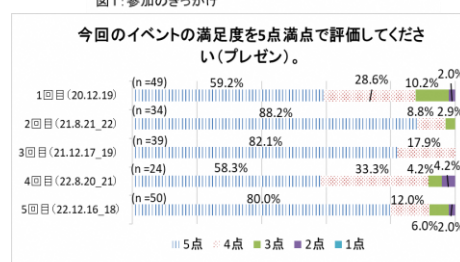


図2: プレゼンの満足度

時間	内容
~18:00	環講1に集まってもらう
18:00~18:10	開会式
18:10~18:15	移動
18:15~18:30	A班 屋上にて見学 B班 地学実験室にて発表を聞く C班 天文台にて見学
18:30~18:35	移動
18:35~18:50	A班 地学実験室にて発表を聞く B班 天文台にて見学 C班 屋上にて発表を聞く
18:50~18:55	移動
18:55~19:10	A班 天文台にて見学 B班 屋上にて発表を聞く C班 地学実験室にて発表を聞く
19:10~19:15	移動
~19:25	閉会式



図6: プレゼンの様子

凡例の順番とグラフ中の割合の順番は対応している。nは調査数を現す。

図4: 星空観察会のタイムテーブル

結果・考察

参加のきっかけについてのアンケート(図1)から、普段は星に接していない方でも星に対する興味関心を持っているのは横浜市という地域柄、空を見上げても1~2等級程度の星しか見えず天文台を通して見る局所的な星空だとしても観てみたいという気持ちが高まったのだと考えられる。逆に言うと地方で開催した場合はあまりこのような結果はのぞまれないのではないかと。また、図1~図3より星や宇宙に興味がある人と高評価をつけてくださった方の割合がそれぞれ最も多い数字になっていることから、星に興味がある人に適切な内容のイベントであったと考えた。また、天体観測(図3)の満足度の1回目から5回目のそれぞれの平均点を出すと、1回目は4.35点、2回目は4.58点、3回目は4.76点、4回目は4.41点、5回目は4.68点となった。一回目と四回目は天候が雨だったということにより、星や宇宙に興味がある人にとっては満足出来ず、他の開催日より満足度が低いということが数値にも現れた。